

福岡県における水中遺跡に関する現状と課題

1 福岡県における水中遺跡の把握

- ① 昭和43年(1968)3月 『全国遺跡地図(福岡県)』(文化財保護委員会)
;埋蔵文化財包蔵地 5,599 か所(海底遺跡0、河川にかかる川底遺跡22)
- ② 昭和51(1976)～昭和56年(1981) 『福岡県遺跡等分布地図』(福岡県教育委員会)16冊
;埋蔵文化財包蔵地 17,169 か所(社寺等含む。海底遺跡0、湖沼・池の遺跡1、川底遺跡31)
- ③ 昭和59年(1984)11月 『全国遺跡地図 福岡県』(文化庁文化財保護部)
;埋蔵文化財包蔵地 14,652 か所(海底遺跡0、湖沼・池の遺跡1、川底遺跡31)
- ④ アジア水中考古学研究所のホームページによると、福岡県は海中遺跡として25か所
;碇石や銅矛が海中から引き揚げられた地点も入る
- ⑤ 平成24年(2012)11月 文化庁調査
;福岡県の埋蔵文化財包蔵地 23,683 か所(現存 18,679、消滅 5,004、水中遺跡11)
(福岡市海2・春日市湖沼/池1・水巻町河川1・飯塚市河川4・嘉麻市河川3・その他0)

2 福岡市の埋蔵文化財包蔵地

- * 福岡市分布地図において、周知の包蔵地は2か所、点としての場所が4か所
- 平成7年の福岡市文化財分布地図「西部Ⅱ」(1995)において点として表示
 - ・宮浦沖 ; 碇石
 - ・唐泊 ; 銅矛
 - ・西ノ浦沖 ; 白磁
 - 平成9年の福岡市文化財分布地図「東部Ⅱ」(1997)
 - ・沖津島遺跡 ; 遺跡番号0471(志賀島西部) 市報391集
南北約130m、東西約40mの範囲
 - ・志賀島 弘 ; 碇石(点として表示)
 - 平成10年の福岡市文化財分布地図「西部Ⅲ」(1998)
 - ・タケノシタ遺跡 ; 遺跡番号2788(玄界島西部) 市報391集
南北約300m、東西約130mの範囲

3 福岡市及びアジア水中考古学研究所による調査

○ 玄界島

◆タケノシタ遺跡(玄界島海底遺跡;2788)

1984(昭和59)年・1994(平成6)年5月～6月に調査

沈没船の積み荷が散布している遺跡。沈没船は残存しない。蛸壺3・白磁碗3のほか唐津系の碗234・皿403・大皿11・鉢3・壺13・甕3・瓶13・不明器種24があり、引き揚げたのは17点

○ 玄界島沖北東4.5kmの海域で沈没船の調査

- ◆ 平成6年(1994)～平成22年(2010)度に玄界島沖北東4.5kmの海域で沈没船調査を実施。但し、これまでに「中世交易船」は確認できていない。

○ 能古島

- ◆ 1992（平成 4）年；福岡市教育委員会が国庫補助で遺跡発掘事前総合調査を実施

○ 志賀島

◆ 沖津島遺跡（沖津島遺跡；0471）

- 1994（平成 6）年；福岡市教育委員会が国庫補助で遺跡発掘事前総合調査を実施

○ 相島

- ◆ 2011（平成 23）年；7/16～7/17 にアジア水中考古学研究所（ARIUA）が海底探査実施。

4 福岡県における各種開発の事前把握と協議

例年、9月～10月頃に各開発部局へ次年度の事業について、「平成〇〇年度施工予定の各種開発事業について（照会）」として照会をかける

- 回答のあった内容について当該市町村教育長あて照会をかける
- 当該市町村からの回答をとりまとめ、各開発部局及び当該市町村あて通知する

5 ダムで水没した遺跡

◆ 福智山ダム 2003年度完成

内ヶ磯窯跡の調査は1979年（昭和54）の1次調査から1999年（平成11）年度の8次調査に及び、調査後に遺構は保護砂を敷き均して埋めもどし、遺構表現の盛土表面工法は「自然石張工法」、斜面安定のための抑止工法は「ジオテキスタイル工法」を採用して、窯跡は現地の水中に保存されている。